

(様式2)

健やか食育プロジェクト事業報告書

健康福祉事務所名 宝塚健康福祉事務所

1 食育推進体制の整備

食育推進課題	<p>管内各市のデータヘルス計画より、医療費は55歳前後から急激に増加する傾向にあり、医療費のうち高い割合を占める生活習慣病の内訳では糖尿病や高血圧性疾患の占める割合が高い。持続可能な社会の実現に向け、働き盛り世代における生活習慣病予防は喫緊の課題であるが、これらの世代は健康づくりのために時間を割く余裕がないことも多く、食育の機会を得にくい世代である。</p> <p>また、Withコロナ社会において、外出自粛やテレワーク等の導入により、管内の事業所給食施設（社員食堂）や寮など働き盛り世代を取り巻く食環境や食習慣にも変化があったことが想定されるが、従来の方法による状況把握は困難であり、コロナ禍を踏まえた食課題の抽出、課題解決に向けた取組方法を模索していく必要がある。</p>
今年度の推進方策	<p>事業所給食施設、寮を通じた食環境や食行動に関する調査を実施し、コロナ禍を踏まえた食課題の抽出、課題解決に向けた取組方法を模索する。</p> <p>また、企業主体の食を通じた健康づくりに取組む企業の増加・食環境整備の充実を図る。</p>
成果	<p>一部施設では4月の緊急事態宣言以降食堂を閉鎖していたが、大半の施設では、感染防止対策を講じ食堂の運営を継続していることが明らかとなった。また、事業所給食（社員食堂）では利用割合が下がる傾向にある一方で、寮では約3割の施設で利用割合が増加していた。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の流行を契機に、職員の肥満や高血圧等の生活習慣病を課題と捉えている事業所も複数あることもわかった。</p>
今後の方向性	<p>職員の健康課題が認識できている施設については、課題解決に向けた取組について支援方法を検討する。健康課題や目標設定が不十分である施設については、利用者の健康状態を把握するよう働きかける。</p>

2 会議の開催状況

実施日時	}	新型コロナウイルス感染症流行のため開催中止 書面にて感染症流行下における社員食堂（寮食堂） 実態調査結果の還元と当所の取組について情報提供
参集者 （団体数 及び人数）		
協議内容		
今後の方策		当面、集合型開催は困難な状況が予想されるため、オンラインで参加可能と回答のあった企業等を中心に実施を検討する。

※会議の議事録、参集者名簿を添付すること。

3 食育実践活動の結果

テーマ	Withコロナ社会で変わる社食 食で支える社員の健康		
対象及び参加者数	第1回 アイリスオーヤマ株式会社三田工場 61人 第2回 アイリスオーヤマ株式会社三田工場社員 第3回 管内給食施設 事業所32施設、寮11施設		
事業内容	日時・場所	内 容	講師・運営スタッフ
	令和2年9月	【実態調査】 働き盛り世代の食に関する調査	アイリスオーヤマ株式会社三田工場 宝塚健康福祉事務所
	令和3年3月	【食環境整備事業】 朝食摂取の啓発用リーフレット・ポスター配布	アイリスオーヤマ株式会社三田工場 宝塚健康福祉事務所
令和2年10月	【調査・普及啓発】 新型コロナウイルス感染症流行下における社員食堂（寮食堂）実態調査	管内給食施設（事業所・寮） 宝塚健康福祉事務所	
成果	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症流行下における事業所給食施設（社員食堂・寮）の運営実態を概ね把握することができた。 調査表回収率 事業所 24 施設（75%）寮 8 施設（73%） 調査結果より事業所給食施設（社員食堂）では、約半数の施設で労働者の健康の保持増進を図るための計画が策定されておらず、労働者の身体状況や食習慣等の課題についても、把握や目標設定が十分でない実態が明らかとなった。 社員の健康課題が認識できている施設については、「肥満」や「高血圧」「朝食欠食」を健康課題として捉えている施設が複数みられた。 <p>【評価指標と目標値及び達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者状況把握をしている施設数の増加 ベースライン9施設（H29） → R2末11施設（※最終17施設目標） 健康・栄養情報の提供をしている施設数の増加 ベースライン24施設（H29） → R2末21施設（※最終31施設目標） 		
今後の課題	<p>感染症の影響が長期化する中、従来の方法（健康講話やブース展示等）による食育は困難な状況が続くと予想される。 オンラインにて食育会議等への参加も可能と回答した事業所も複数あることから、今後はオンラインを併用した食育について検討を行う。</p>		

※プログラムや内容がわかる資料を抜粋し添付すること。

with コロナ社会で変わる社食 食で支える社員の健康

事業 背景

働きざかり世代への生活習慣病予防のに向けた対策は喫緊の課題。

With コロナ社会において、外出自粛やテレワーク等の導入により、管内の事業所給食施設（社員食堂）や寮など働き盛り世代を取り巻く食環境や食習慣にも変化があったことが想定されるが、従来の方法による状況把握は困難である。コロナ禍を踏まえた食課題の抽出、課題解決に向けた取組方法を模索していく必要がある。

事業の ねらい

コロナ禍を踏まえた食課題の抽出
課題解決に向けた取組方法を模索
食を通じた健康づくりに取組む企業の増加

新型コロナウイルス感染症流行下における社員食堂（寮食堂）実態調査を実施

【調査対象】管内給食施設 43 施設（事業所・・・32 施設、寮・・・11 施設）

【調査時期】令和2年10月

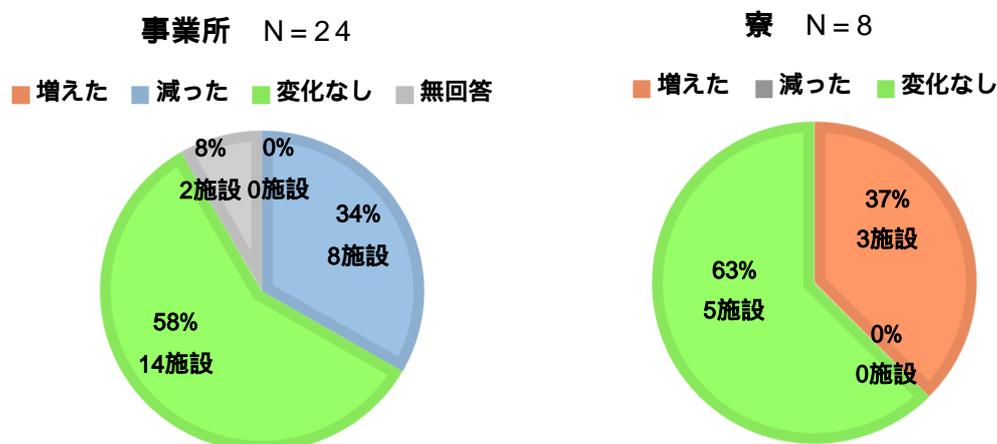
【調査方法】郵送にて調査協力依頼。調査用紙は郵送にて配付。

回収は郵送の他、eメール、FAXにて実施。

【回収率】事業所 24 施設（75%） 寮 8 施設（73%）

結果一部抜粋

Q 新型コロナウイルス感染症流行により食堂利用割合に変化はありましたか？



事業所給食施設（社員食堂）では約3割の施設（8施設）で利用割合が減った一方で、寮では利用割合が減ったと回答した施設はなく、約4割（3施設）で利用割合が増えています。

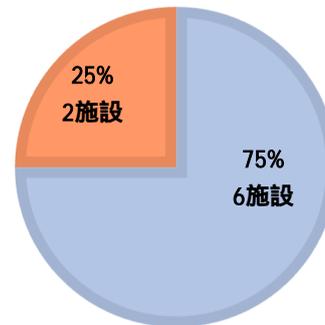
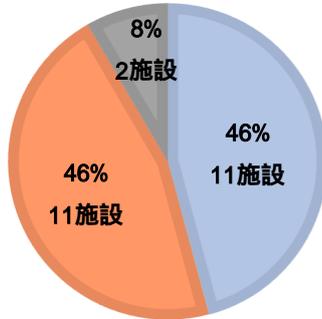
Q 事業者は労働者（喫食対象者）の身体状況、食習慣の課題を把握していますか？

事業所（社員食堂） N=24

寮 N=8

■ 把握している ■ 把握していない ■ 無回答

■ 把握している ■ 把握していない



事業所給食施設（社員食堂）では約半数の施設で労働者の健康の保持増進を図るための計画が策定されておらず、労働者の身体状況や食習慣等の課題についても把握や目標設定が十分でない実態が明らかとなりました。

一方で、健康課題を把握していると回答した施設では、従業員の「肥満」や「朝食欠食」を課題と捉えている施設が多くありました。

朝食摂取の啓発用リーフレットを作成・配付



新型コロナウイルス感染症が重症化しやすいのは
高齢者と
基礎疾患のある方です。

基礎疾患のリスクとなる基礎疾患等には、慢性腎臓病(CKD)、慢性腎臓病、糖尿病、高血圧、心血管疾患、肥満、喫煙があります。

厚生労働省(2021年3月31日現在) 新型コロナウイルス感染症の「11」に関する11の知恵 (2021年3月31日現在)より

中でも、肥満については、日本の食生活が関係に関わっており、健康的な食生活を実践することで予防・改善できる疾患です。

世界中で感染拡大が広がっている今だからこそ、日本の食生活を振り返ってみませんか。

阪神北摂民局定額健康福祉事務所（宝塚保健所）健康管理課 TEL. (0797-62-7304)

毎日朝食を食べていますか？

朝食欠食者は、ほぼ毎日食べている人に比べて、2型糖尿病発症リスクが約1.7倍高いことが報告されています。

朝食を毎日食べる	朝食を食わない(週1-2回)
1.0 (n=4,180)	1.7倍 (n=420)

Uemura M. *Journal of Epidemiology*. 2015;25:515-520.

兵庫県HP 朝食 で検索

兵庫県で作成した栄養・食生活関係のリーフレットを対象・目的別に多数掲載しています。

毎日を元気に過ごすためには、健康なからだの基本働きざかり世代の食を通じた健康づくりと一緒に取り組まいませんか？

宝塚保健福祉事務所(宝塚保健所)では、平成29年度より働きざかり世代の食を通じた健康づくり促進事業(食生活改善プロジェクト)事業を実施しています。

【市内印刷で栄養・食に関する健康セミナー(セミナー)を開催したい。】
【食生活を改善し従業員の健康づくりに取り組みたい。】など、お気軽にご相談ください。

今後の方向性

約半数の施設では、職員の健康課題や目標設定が不十分であることから、利用者の健康状態を把握するよう働きかける。

オンラインにて食育会議等への参加も可能と回答した事業所も複数あることから、今後はオンラインを併用した食育についても検討を行う。